

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 10 月 5 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600039		
法人名	特定非営利活動法人匠の家		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ケアホーム匠		
所在地	731-0521 安芸高田市吉田町常友486番地 (電話) 0826-47-1013		
自己評価作成日	平成22年10月5日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3493600039&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年10月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・できる限り毎日、利用者の人と買い物に出かけるようにしている。・毎年12月には因島へ八朔狩りに全員の利用者の人と家族、職員で行っている。・毎月の行事に加えて「匠の4大行事」として4月の花見・7月の夏祭り・10月の家族会・12月の八朔狩りには必ず家族の方にも参加の案内をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、約3年前に安芸高田市郊外の田園の中に開設されており、法人理念から今年度は「その人らしさを大切に」と実践目標を掲げ、家庭的な環境の下で入居者の生活の自立を目指し、併設の小規模多機能型居宅介護の利用者と、グループホーム入居者と一体となった運営は、お互いに良い刺激を与えあい、職員も一体となり、良いチームワークも生まれ、全ての職員が生き生きとケアサービスに取り組んでいる。また、地域のモデル的なホームの確立を目指し、市と連携し認知症アドバイザー・市民総ヘルパー構想への協力なども行われている。事業所の「匠の4大行事」には利用者・ご家族・職員全員が参加する等、ホームとご家族とが強い絆で結ばれている。現在、入居待ちの方も多く、更に地域に密着し、地域の方に支援されるグループホームの構築を目標に、全職員が一丸となり取り組まれている。

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念はみんなで出し合って決めて、毎朝の朝礼の後にはみんなで唱和して取り組むようにはしているが、実践には特に「その人らしさを大切に」という取り組みが出来ていない。	三つの法人理念は、職員全員で作り上げ事務所の中に掲示されている。本年度はその中から「その人らしさを大切に」の実践目標を掲げ、入居者の生活の自立支援をめざし、今までの生活習慣・趣味に沿った個別的な対応の介護支援に取り組まれているが、更なる向上が期待される。	「その人らしさを大切に」の更なる実践に向かって、全職員に具体的な実践目標を定め、その達成度について話し合いを行い、常に意識を持続させ目標の達成状況を評価し、全職員の介護意識・介護技術の向上を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域とのつながりが足りないので、日常的に交流出来るように地域に出たり来たりもらったりしながら、交流を深めていきたい。	事業所が田園の中にあり、地域の方々の交流がやや不足しているが、現在地域の行事に積極的に参加されており、また入居者の方の買い物支援などを通じ、地域の方との交流に努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人に活かせるように、介護教室などをして取り組んでいきたいという思いはあるが、まだ実践できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で報告や話し合いをして、忌憚のない意見を聞かせてもらい、サービスの向上に活かせるように、みんなに報告をしている。しかし、まだ十分に活かせていないので、職員が順番に会議に出席をして、直接意見等が聞けるようにして、活かしていきたい。	運営推進会議は、年6回確実に実施されているが、会議の議題などややマンネリ化しているようである。今年度は、事業の円滑な推進・介護サービスの向上に向け、会議への出席者の見直し・議題を工夫され、出席者の改善提案をもとに、更なる介護技術・介護サービスの向上を期待します。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者とは運営推進会議に出席してもらったり、連絡を取り合っているが、密にというほどではないので、今後は積極的に伝えて協力関係を築いていきたい。	事業所と行政との繋がりや、オレンジアドバイザー・市民総ヘルパー構想への協力等、また年6回の運営推進会議にも市担当者の出席もあり、強い協力関係が築かれている。	

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の自動ドアは外からは開くが中からはスイッチを押さなければ開かないようになっているため、自由に出入りすることが出来ない。出たい人にはすぐに出来るように開けて見守ったり、一緒に出たりしたい。</p>	<p>利用者の安全を確保しつつ、抑圧感のない自由な暮らしを支援するために、小規模多機能の職員との連携をとりながら、工夫されてケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>再々学ぶ機会を持って、事業所内でも職員同士で注意ができるような雰囲気を持って、虐待が見過ごされることのないようにしたい。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>学ぶ機会が少ないので、内部研修をしてしっかり学び、活用できるようにしたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>十分な説明をするようにしているが、一回では理解できないことも多いので、わからない事や疑問な事は、いつでも遠慮なく聞いてもらうように、話しをしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関へ意見箱を設けたり、毎月の匠たよりを送る時に、忌憚のない意見が聞けるように、意見や要望等が書ける用紙を、一緒に送っている。</p>	<p>玄関先に意見箱の設置と、毎月発行の匠たよりに、意見を書ける用紙を同封している。現在は、来訪時にご家族との面談に時間を取り、十分に意見や要望を聞き、月1回実施する職員会議等を通じ話し合い、運営に反映されている。</p>	

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	正職員の法人会員への参画により運営に興味を持ってもらうようにしている。月に一回の職員会議で意見を出し合い運営に向けている。	毎月1回実施する職員会議での意見交換、また現在事業所内の問題点・改善点について、全職員のブレインストーミングによる問題を提起して、改善に取り組まれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則、給与規定、等級管理規定等の周知徹底を行っている。 職場環境については職員会議において要望を聞き、参加者で話し合い、就業規則に盛り込むようにしている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修委員により外部、内部研修と個人のスキルアップに合わせた方向性はあるが人材育成の面での研修の体系化もこれから取り組む課題である。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流は職員が持てるようにしている。ネットワーク作りまでは、出来ていないのが現状。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用を開始する時にはしっかりと話を聞くようにして安心して利用ができるように努めており、わからないことがあればいつでも遠慮なく聞いてもらうように話をしている。			

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安なことや要望等は必ず聞くようにしており、計画作成担当者や本人の担当者と顔を合わせて話しをしたり、いつでも遠慮なく聞いてもらえるように話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームへ入居しなければいけない状態なのか、他のサービスを使えば自宅でも生活が可能なのか等をしっかり聞いて、いろいろなサービスを伝えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物を干したりたたんだり、料理の下ごしらえや配膳等出来ることは、自分でしてもらったり、一緒にしながら共に笑ったり泣いたりしながら、生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には、なるべくゆっくりと話しができるように、お茶等を出して、自室や過ごしやすい所で過ごしてもらえるように、配慮したり、日常の状態や受診の都度報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人が面会に来られたら、お茶等を出して、ゆっくりと話しができるようにしたり、墓参りに行ける所へは、家族に聞いて連れて行ってあげている。	入居者の方々の馴染みの人や、地域との関係継続の支援は若干困難なようではあるが、ご家族の支援によりお墓参りなど実施されている。また、昔馴染みの方の来訪があれば、ゆっくりお話が出来るよう心くばりがなされている。	

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立しないようにみんなで集えるようにはしているが、利用者同士のコミュニケーションはとりにくいのが現状。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても時々、面会に行ったり連絡を取って家族の相談等の支援をしている。		
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どうしたいか、話しをして、気持ちや思いを知ることができる。お茶や食事の時にも、何気ない会話の中から思いを聞けることがある。	「その人らしさを大切に」を念頭に、入居者の方に接する時間を大切に、生活歴を参考にしながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の時に聞いたり、センター方式の記入の時に本人や家族に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックをして、体調の変化を把握しながら、できることしたいことを聞いて、一人ひとりの過ごし方を決めるようにはしているが、時々職員が決めつけて対応している時がある。		

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	面会時に家族に介護計画についての希望や現状を話したりできる時には、家族、担当者、計画作成担当者等で計画についてのカンファレンスをしているが、本人が参加できていないことが多い。	日々記録している介護日誌を参考に、入居者・ご家族・担当者・計画作成担当者等でカンファレンスし、短期・長期の介護計画が作成されている。また、常に入居者の変化に対応した見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日勤帯、夜勤帯ともにケア記録に記入はしているが記入の仕方に統一ができていないところがあるのでしっかり記入できるようにしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	サービスの多機能化には取り組んでいないが、併設している小規模多機能型居宅へは、自由に行き来して落ち着ける場所で過ごしてもらえるように、制限はしていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源が活かされていないので、小学校の運動会へ行ったり、下校時の見守りを職員と一緒にしたり、できる事から参加して行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけの病院へは、定期受診をしたそれ以外にも体調に合わせて受診をして家族には報告をするようにしている。	現在地域の入居者に対して、定期往診して頂ける病院が無いため、入居者一人ひとりの今までのかかりつけ医による往診・受診をご家族の支援や事業所の支援で行われている。夜間や緊急な事態には、地域の厚生連吉田総合病院と医療協力体制が確立されている。	

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の気づきや相談はその都度看護師へ相談したり訪問看護師にも報告や相談をして心配のないようにアドバイスをもらったり早めに受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には再々面会に行き、聞ける時には状態を聞いて帰ったり、退院に向けては、情報を得るようにしており、退院後も疑問な事は、病棟へ聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の方針を示して家族に同意を得ている。終末期については、その時に家族とカンファレンスをしてね希望にそえるようにしたい。	開設以来まだ看取りの経験はないが、ご家族からの要望もあり、重度化・終末期に対応する指針の整備を行い、対応についてご家族に対し説明されており、今後、更なる体制の整備と職員の対応に対する教育訓練が望まれる。	看取りに当たっては、医者・看護師・職員等との協力体制、またご家族との信頼関係の樹立が求められる。今後更に具体的な実施方法を検討され、各関係先との連携と全職員に対し、看取りや介護のあり方（意識・技術）の習得や訓練により、チームで支援できる体制づくりを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	初期対応の訓練はできていないので、早いうちに訓練をして、全職員が不安なく対応できるようにしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に火災時の避難訓練はしているが、災害時の訓練はできていない。地域の協力が得られるように、訓練に参加してもらえよう取り組みをしていきたい。	年2回定期的な防災・避難訓練を行っており、ホーム内の各ユニット毎に避難マニュアルが掲示されている。今年の11月から、スプリンクラーの設置工事も計画されている。今後各種訓練の実施記録の作成保管と、問題点を改善され、更なる安全で快適なホームの確立を期待する。	

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重するようにしているが、時には傷つけるような声かけや対応をしていることもあるので、全職員が振り返りをして自分ならどうかということを考えながら対応していきたい。	「その人らしさを大切に」を常に念頭に、入居者の人格を尊重し、特に入浴・排泄時の言葉掛けや、態度に気をつけて対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや希望を聞いてはいるが自己決定できないときには職員が判断していることがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	理念にもあげているが、その人らしさを大切にした支援が職員の都合で過していることがあるのでみんなで作った理念を実践していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日常からなるべくおしゃれな洋服を着てもらえるように、選んで本人へすすめる時がある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員が同じ時間に同じ食事を一緒に話しをしながら食べている。食事の準備や片付けはできる人が無理のない程度で行っている。	献立は外部の管理栄養士に依頼し、その中から献立を選ぶ等、できるだけ入居者の好みを取り入れる工夫に努められている。また、職員と入居者が無理のない程度と一緒に調理され、全員同じ料理を語らいながら楽しく食事をしたり、おやつ等も全員でつくられている。	

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量が少ない人や水分摂取量が少ない人は，チェックシートに記入するようにして，工夫をして，摂れる物を時間を気にしないであげるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後はできていないが，うがいや昼食後は必ず口腔ケアや義歯のポリドントをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンをつかむようにチェックシートをつけて，パターンはつかむようにしている。トイレで排泄できる可能性のある人もいるので，今後取り組んでいきたい。	職員が利用者一人ひとりの日々の排泄パターンを把握し，できるだけトイレで排泄出来るよう取り組まれている。また，夜間においても各部屋にトイレがあるため，自分の意思で排泄が出来るよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェックをして，かかりつけ医や訪問看護師に相談しながら，指示をもらったりお茶の時間には，プルーン等を食べてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	聞いて決定できる人にはその人のタイミングや希望に合わせた入浴ができるようにしているが，決定ができない人や入浴が嫌いな人には職員の都合で決めていることがある。	基本的には毎日の入浴も可能であるが，毎日バイタルチェックを行い，入居者の希望に合わせた入浴支援が行われている。	

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>体調や生活習慣に合わせて、ベットや畳で休んでもらって、生活のリズムをつけながら生活している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の内用が変わったら、その都度情報が伝わるように、記録を見て確認ができるようにね連絡帳に記入している。症状の変化には気をつけて、記録や申し送りをしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>生活歴や力を活かした支援は、全員にはできていないので、役割や楽しみごとを見直してね喜びのある笑顔が沢山見られるような支援をしていきたい。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>因島への八朔狩りや、自宅の墓参り等に連れて行ってあげている。気候が良いときには、日常的に戸外に出かけるようにしたい。</p>	<p>事業所「匠の4大行事」等全員での外出支援は出来ているが、重度の入居者が多いため、日々の外出支援がやや少ない感じます。ホームの前の道路も舗装整備されたので近隣の散歩、またウッドデッキの整備をされ、椅子・テーブルなど配置されて日光浴などに活用される事を期待する。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>おこづかいは預かっているが、本人が使えるような支援ができていないので、一緒に買い物に出かけた時には、自分で支払えるようにしたい。</p>		

あやめ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙を書く希望の人はいないが、職員の働きかけができていないこともあるので、一人ひとりに聞いて支援していきたい。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく季節の花を飾ったり、音楽をかけたり、換気には気をつけている。	玄関入り口には季節のお花を飾られているが、地域の消防署の指導で、壁飾りなどの貼り付けを自粛されているため、若干寂しさを感じられるが、ホーム内外の清掃や室温・換気などには細心の注意を図りながら、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールで利用者同士で過ごしたり、建物の中を自由に移動して、落ち着く所で過ごしている。落ち着ける場所があれば、無理には誘導しないようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物を持って来てもらってもいいことを伝えて、安心した環境の中で生活している人もいるが、殆どの人は持って来ていない。	各居室には、トイレと洗面所が設置され、居室の壁にはボードが設置されており、外出時の写真やご家族の写真等が貼られている。また、入居者は、今まで生活されてきた環境に近い居室に暮らせるよう、使い慣れた馴染みの物を持ち込み、楽しく暮らせる居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全室にトイレと洗面所をつけて、夜間でも迷うことなく、トイレに行くことができるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念はみんなで出し合って決めて、毎朝の朝礼の後にはみんなで唱和して取り組むようにはしているが実践には特に「その人らしさを大切に」という取り組みが出来ていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域とのつながりが足りないので日常的に交流出来るように地域に出たり来てもらったりしながら交流を深めていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人に活かせるように介護教室などをして取り組んでいきたいという思いはあるがまだ実践できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で報告や話し合いをして忌憚のない意見を聞かせてもらいサービスの向上に活かせるようにみんなに報告をしているがまだ十分に活かせていないので職員が順番に会議に出席をして直接意見等が聞けるようにして活かしていきたい。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町担当者とは運営推進会議に出席してもらったり連絡を取り合っているが密にといいほどではないので今後は積極的に伝えて協力関係を築いていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の自動ドアは外からは開くが中からはスイッチを押さなければ開かないようになっているため自由に出入りすることが出来ない。出たい人にはすぐに出られるように開けて見守ったり一緒に出たりしたい。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>再々学ぶ機会を持って、事業所内でも職員同士で注意ができるような雰囲気を持って虐待が見過ごされることのないようにしたい。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>学ぶ機会が少ないので内部研修をしてしっかり学び活用できるようにしたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>十分な説明をするようにしているが一回では理解できないことも多いのでわからない事や疑問な事はいつでも遠慮なく聞いてもらうように話しをしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関へ意見箱を設けたり毎月の匠たよりを送る時に忌憚のない意見が聞けるように意見や要望等が書ける用紙を一緒に送っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	正職員の法人会員への参画により運営に興味を持ってもらうようにしている。月に一回の職員会議で意見を出し合い運営に向けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則、給与規定、等級管理規定等の周知徹底を行っている。職場環境については職員会議において要望を聞き、参加者で話し合い就業規則に盛り込むようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修委員により外部、内部研修と個人のスキルアップに合わせた方向性はあるが人材育成の面での研修の体系化もこれから取り組む課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流は職員が持てるようにしている。ネットワーク作りまでは出来ていないのが現状。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用を開始する時にはしっかりと話を聞くようにして安心して利用ができるように努めており、わからないことがあればいつでも遠慮なく聞いてもらうように話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安なことや要望等は必ず聞くようにしており、計画作成担当者や本人の担当者と顔を合わせて話しをしたり、いつでも遠慮なく聞いてもらえるように話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームへ入居しなければいけない状態なのか、他なサービスを使えば自宅でも生活が可能なのか等をしっかり聞いて、いろいろなサービスを伝えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物を干したりたたんだり、料理の下ごしらえや配膳等出来ることは自分でしてもらったり一緒にしながら共に笑ったり泣いたりしながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にはなるべくゆっくりと話しができるようにお茶等を出して自室や過ごしやすい所で過ごしてもらえるように配慮したり日常の状態や受診の都度報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人が面会に来られたらお茶等を出してゆっくりと話しができるようにしたり、墓参りに行ける所へは家族に聞いて連れて行ってあげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立しないようにみんなで集えるようにはしているが、利用者同士のコミュニケーションはとれにくいのが現状。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても時々は面会に行ったり連絡を取って家族の相談等の支援をしている。		
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どうしたいか、話しをして気持ちや思いを知ることができる。お茶や食事の時にも何気ない会話の中から思いを聞けることがある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の時に聞いたり、センター方式の記入の時に本人や家族に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックをして体調の変化を把握しながら、できることしたいことを聞いて一人ひとりの過ごし方を決めるようにはしているが、時々職員が決めて対応している時がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>面会時に家族に介護計画についての希望や現状を話したりできる時には家族、担当者、計画作成担当者等で計画についてのカンファレンスをしているが本人が参加できていないことが多い。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日勤帯、夜勤帯ともにケア記録に記入はしているが記入の仕方に統一ができていないところがあるのでしっかり記入できるようにしていきたい。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能化には取り組んでいないが併設している小規模多機能型居宅へは自由に行き来して落ち着ける場所で過ごしてもらえるように制限はしていない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源が活かされていないので小学校の運動会へ行ったり下校時の見守りを職員と一緒にしたりできる事から参加して行きたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけの病院へは定期受診をしたりそれ以外にも体調に合わせて受診をして家族には報告をするようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の気づきや相談はその都度看護師へ相談したり訪問看護師にも報告や相談をして心配のないようにアドバイスをもったり早めに受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には再々面会に行き、聞ける時には状態を聞いて帰ったり、退院に向けては情報を得るようにしており退院後も疑問な事は病棟へ聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の方針を示して家族に同意を得ている。終末期についてはその時に家族とカンファレンスをして希望にそえるようにしたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	初期対応の訓練はできていないので早いうちに訓練をして全職員が不安なく対応できるようにしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に火災時の避難訓練はしているが災害時の訓練はできていない。地域の協力が得られるように訓練に参加してもらえようような取り組みをしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重するようにしているが時には傷つけるつけるような声かけや対応をしていることもあるので全職員が振り返りをして自分ならどうかということを考えながら対応していきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや希望を聞いてはいるが自己決定できないときには職員が判断していることがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	理念にもあげているが、その人らしさを大切にしたい支援が職員の都合で過していることがあるのでみんなで作った理念を実践していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日常からなるべくおしゃれな洋服を着てもらえるように選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員が同じ時間に同じ食事を一緒に話しをしながら食べている。食事の準備や片付けはできる人が無理のない程度でしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量が少ない人や水分摂取量が少ない人はチェックシートに記入するようにして工夫をして摂れる物を時間を気にしないであげるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔ケアは毎食後はできていないが，うがいや昼食後は必ず口腔ケアや義歯のポリドントをしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンをつかむようにチェックシートをつけてパターンはつかむようにしている。トイレで排泄できる可能性のある人もいるので今後取り組んでいきたい。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェックをしてかかりつけ医や訪問看護師に相談しながら指示をもらったりお茶の時間にはプルーン等を食べてもらっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>聞いて決定できる人にはその人のタイミングや希望に合わせた入浴ができるようにしているが決定ができない人や入浴が嫌いな人には職員の都合で決めていることがある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>体調や生活習慣に合わせてベットや畳で休んでもらって生活のリズムをつけながら生活している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の内用が変わったらその都度情報が伝わるように記録を見て確認ができるように連絡帳に記入している。症状の変化には気をつけて記録や申し送りをしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>生活歴や力を活かした支援は全員にはできていないので役割や楽しみごとを見直して喜びのある笑顔が沢山見られるような支援をしていきたい。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>因島への八朔狩りや自宅の墓参り等に連れて行ってあげている。気候が良いときには日常的に戸外に出かけるようにしたい。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>おこづかいは預かっているが本人が使えるような支援ができていないので一緒に買い物に出かけた時には自分で支払えるようにしたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙を書く希望の人はいないが、職員の働きかけができていないこともあるので一人ひとりに聞いて支援していきたい。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく季節の花を飾ったり音楽をかけたり換気には気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールで利用者同士で過ごしたり建物の中を自由に移動して落ち着く所で過ごしている。落ち着ける場所があれば無理には誘導しないようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物を持って来てもらってもいいことを伝えて安心した環境の中で生活している人もいるが殆んどの方は持って来ていない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全室にトイレと洗面所をつけて夜間でも迷うことなくトイレに行くことができるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 認知症対応型共同生活介護 ケアホーム匠

作成日 平成22年12月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	三つの事業所の理念が実践されにくかった	皆で作り上げた事業所の理念を実践していく	現在の三つの理念について個々の目標を書き出して、BS法により小さい目標を作り上げて実践している	すでに実践しているので継続して実践する
2	49	日常的に戸外へ出かける機会が少なかった	日常的に戸外へ出かける	業務の見直しもして日常的に戸外へ出やすい日を決めて出かけている	すでに実践しているので継続して実践する
3	4	運営推進会議がマンネリ化している	運営推進会議の議題等がマンネリ化しないようにする	今までもして来たが、議題や出席者の見直し等を継続して提案していき地域にとけこめるように改善をしていく	今年度 来年度
4	33	重度化や終末期に向けた対応の体制づくりが不十分	チームで支援できる体制づくりをする	各関係者の協力体制づくり、具体的な実施方法、全職員の意識・技術の習得のための勉強会をしていく	今年度 来年度
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。